

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0171400765 | | |
| 法人名 | 医療法人 富田病院 | | |
| 事業所名 | 高齢者グループホーム あねもね (あね棟) | | |
| 所在地 | 北海道函館市日吉町4丁目7番83号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人がこれまで家庭で行ってきた、食事の支度や掃除、洗濯など生活上の役割や日曜大工や園芸などの家庭での出番を、専属スタッフのポイントケアとフォローアップにより無理のない程度に続けていただけるよう心がけ、ゆったりとした暖かい環境で生活していただくよう職員一同心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400765&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年2月22日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の運営法人は認知症専門の医療法人である。敷地内に老人保健施設、ケアハウスを併設しており、自然豊かな丘陵地にある。事業所内は明るく清潔感があり、居間の和風の小上がりと家具の配置も家庭的である。毎週、作業療法士による回想法、嚥下体操、リハビリ、学習療法などで利用者の身体機能低下の予防につなげている。管理者と職員は利用者の尊厳を守り、生活上の役割と出番が発揮できる機会を見出した支援に取り組み、利用者は明るく朗らかで笑い声のある生活を送っている。母体が医療機関であることが家族に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念の揭示、ネームホルダーに入れるなどで共有し実践している。 | 母体法人の理念と、家族、地域との関係性を取り入れた事業所独自の目標を作成し、職員間で意志の統一を図り実践に活かしている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣学校行事への参加、隣接施設への散歩、町内への外食を通して地域との交流を行っている | 近くの小学校行事への参加と社会学習の受け入れ、町内会婦人部との連携、保育園児と一緒に裏庭でミニトマトを収穫し、お礼の手紙をもらうなど、地域と積極的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 見学者の受け入れ、学校教育の一環を通じて認知症の利用者と介護に関することを理解してもらう | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の生活を報告し、行政機関や家族との情報交換を行い実践している | 運営推進会議は、2ヶ月ごとに実施している。会議では、行事や活動状況、評価結果の報告や検討事項などを話し合い、参加メンバーから意見を得て、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している | 市保健所の担当者とは、研修会等で情報交換を行い、常に連携し良好な関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者本位のケアを実践しているため、拘束を行う要素は無い | 身体拘束委員会が、全員の職員を対象に身体拘束の意識調査を実施し、拘束による弊害の理解と意識の統一を図っている。また、母体法人の合同の勉強会に参加するなど、拘束をしないケアを実施している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ご家族および職員間で情報交換を行うことで虐待および虐待と思われる介護をしないことを心がけている。又、研修への参加。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 相談業務を担う職員を窓口とし相談があった場合は支援している。又、研修への参加。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書を利用し契約時に説明を行う | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議を利用している | 家族にはホーム便りや来訪時、運営推進会議などで、常に思いを聞き、何でも言ってもらえるよう信頼関係を築くよう努めている。出された意見は、速やかに対応し、結果を家族に伝えている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議を利用している | 毎月のユニット会議で、職員の気づきやアイデアを話し合い、全体会議で検討し、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員とコミュニケーションをとり、個々の能力を見極めアドバイスし、職場環境についても改善できるものはしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を共有し深めるよう努めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームと勉強会を行っている(道南グループホーム協会Bブロック会議) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日常の会話、手を握るなどでコミュニケーションをとっている。また、顔を合わせる時には挨拶を忘れないようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所時は事前面接を行い、ご家族ならびに入所者の生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時は事前面接を行い、ご家族ならびに入所者の生活状況を聴き、待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 居室清掃や食事作りなど在宅に居る時と同じように生活できる場面を作り同居者のような関係でいる | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会数を増やし、本人と家族、職員と一緒に会話できるようにしている | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 連携を密にとり外泊し馴染みの家に泊まる等行っている。ケア担当を固定し、入れ替わりの無いような場面設定をしている。 | 利用者が以前住んでいた地域に出かけたり、家族で利用した思い出の食堂で外食したり、知人が来訪することもある。遠方からの家族のための宿泊支援など、関係が途切れないよう臨機応変に対応している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理などを行い利用者同士が顔見知りの関係を作っている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 近況を電話連絡などを通じ行っている | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人、ご家族からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている | 職員は、利用者全員の生活歴を把握し、情報を共有している。困難な時は行動や表情から汲み取ったり、職員間で話し合い、その人らしく暮らせるための支援をしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、ご家族からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々のサービス提供の中から把握に努めている | | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 適宜ケアカンファレンスを行いモニタリングし、本人にあったニーズ目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状にあった計画を作成するよう努めている | 家族の生活目標計画表を参考に、看護師である施設長の意見や職員の気づき、アイデアを取り入れ、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人の現状に合わせた介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りや、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | さまざまな社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行い、画一的にならないように努めている | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 食事外食や児童の受け入れなどを通じ、社会性が衰えないようにしている | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医とは定期的な受診を通し情報交換を行っている | 母体が医療法人であり、訪問診療や定期的に健康管理をしているが、本人や家族の希望で以前のかかりつけ医の受診も可能であり、複数の医療機関と連携し、適切な医療を受診できる体制を整えている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|-------------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら受診している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族との情報交換、病院からの病状の把握をしながら良好な関係を築いている | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 病状について、家族と共有する際に施設として支援している | 看取りについて、契約時に家族に事業所としての方針を説明しているが、病状の変化に伴い主治医と家族は繰り返し話し合いながら、チームで方針を共有し支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルの整備や研修を行っている | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 訓練を通して行っている | 年2回、消防署の協力で夜間想定を含んだ訓練を実施している。事業所の見取り図を消防署に提出し、避難場所や避難経路の確認、隣接の施設と通報訓練などを実施し、協力体制を築いている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている | 利用者を人生の先輩として敬い、本人の性格や気持ちを大切に、馴れ合いに注意しながら、プライバシーを損ねない対応をしている。個人の記録は一定の場所に適切に保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日々、調理や食事、片付けを一緒に行っている | 母体法人の管理栄養士が献立作成やカロリー計算をしている。事業所は利用者の嗜好に合わせてアレンジしたり、外食を取り入れるなど、楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切に支援し、調理や片付けも一緒に行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分補給量などを記録し努めている | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄を定期的に促し努めている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけなど個別の排泄支援をしている。本人のプライドを傷つけないように職員は記号で連絡し合い、排泄の自立に取り組んでいる。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便を通し便秘の把握に努め、予防、解消に努めている | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ご本人の意向に即した入浴を心がけている | 入浴は週2～3回を目安にしているが、本人が希望すれば、いつでも入浴できる。拒否傾向の利用者には事前に手紙で伝えたり、時間や曜日を変えるなど、本人の意向に沿って支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 時間にとらわれずに、休めるよう心がけている | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示及び看護職員の指導などで服薬についての知識を深め、情報交換を行っている | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人、ご家族からの情報をもとに努めている | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩に出かけることや、外食の機会を作ることで、外出支援を行っている | おやつ外食や、春の花見から秋の紅葉狩りまで、毎月、遠出のドライブを楽しんでいる。夏には裏庭の家庭菜園や花壇を職員と一緒に育て、近くの保育園児と収穫を楽しみ、外食の機会もあるなど、その日の天候と希望を考慮し、外出支援をしている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の状態により行っている | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 面会、電話、手紙(はがき)、施設だよりなどで近況報告できるように努めている | | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清掃、整理整頓により衛生的な環境づくりに努めている。また季節ごとに飾り付けを行い、季節感を実感できるように努めている | フロアの飾りは季節感があり、廊下、浴室、トイレなどは、広くて清潔で、居間の和風作りの小上がりと家具の配置が家庭的で開放感がある。不快な臭いもなく、利用者が居心地よく過ごせ、安心感のある場所になるよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご本人がリラックスできる場所を確保できるように努めている | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の愛着しているものを持ち込んでもらうようにしている | 居室は洗面台とクローゼットを備え付けてある。また、利用者が自宅から持ち込んだ家具や家族の写真を飾り、在宅当時の部屋を再現するなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うように努めている | | | |